

編集後記

漢方医学の特別企画は大変興味深い内容になりました。各分野の専門家からの提言の中で、漢方がより身近で大きな夢を持っていることを知りました。今後、教育現場や歯科臨床の場で益々注目されそうな新(?)分野になりそうな予感です! 次回もワクワクするような企画に携わりたいです。(片岡 有)

今回の57巻1号もたいへん盛沢山で充実した内容に仕上がりました。小板橋新会長のご挨拶から始まり、特別企画、ICD特別賞とICDアワード受賞者の紹介、特別講演、学会講演、そして一般フェロー投稿、そして事務的報告等で、実に多岐に亘ったジャンルの内容となっています。特に『歯科臨床における漢方医学』の特別企画は明日からの臨床に役立つ内容になっていますのでご期待ください。(柴原孝彦)

2026年は世界的なスポーツが注目を浴びた年になりました。2月にはミラノ・コルティナ冬季オリンピック、3月にはWorld Baseball Classic、7月にはFifa World Cup Soccerが開催され、眠い目をこすりながら深夜に行われる競技に、日本中が応援したものと思います。ICDは歯科領域の国際的な学会の一つです。本学会も本誌から世界に情報を発信していけるよう、充実した紙面になるよう微力ながら貢献したいと思います。(坂本輝雄)

国際歯科学士会の編集委員として活動する中で、卓越した専門性を有する多くの先生方と交流の機会を頂きましたことを光栄に存じます。歯科医療および国際的連携のさらなる発展を願い、本誌を通じて得られた知見を会員の先生方と共有できることを心よりありがたく思っております。(野中直子)

地元広島に帰り、地域歯科医療に従事して早3年が過ぎました。広報・編集委員会にも現地参加することが難しくなり、メールへの対応も遅れがちとなるなど、十分に役割を果たせなくなってきました。委員会も新しい世代へと移り変わるこの機会に、9年間務めた広報・編集委員を退任することといたしました。これまで多くのことを学び、多くの刺激をいただきましたことに心より感謝申し上げます。遠く広島の地から、本誌やホームページがますます充実し、ICD日本部会がさらに発展していくことを楽しみにしております。(佐藤裕二)

昨年まで長年にわたり、国際誌のAssociate Editorを務めてきました。近年は投稿論文が増えたのですが、AIの強い支援を受けたと思われる論文も目立つようになりました。修正依頼に対する著者の対応が非常に迅速ですが、時にはデータの扱いに疑問を感じ、論文の真正性について考えさせられることもありました。一方、ICD日本部会雑誌には、競争とは距離を置いた、落ち着いた学識の場という趣があります。この雑誌の品位を保つため、微力ながら努めてまいりたいと思います。(小森 成)

イランとアメリカのホルムズ海峡での戦争のおかげで、重油不足による物価高が加速して、医療物資の調達が大変になる中の発刊となりました。今回は、最近また、注目がされ始めた漢方治療の特集でした。とても詳しく解説していただき、おさらいとこれからの発展と、臨床応用にとても役に立つ内容かと思えます。その他、新フェローの投稿等多彩な内容になっています。ご寄稿いただいた先生方には厚く御礼申し上げます。(酒向 誠)

今年の夏も記録的な酷暑が続き、日中の外出をためらう日が増えました。このまま温暖化が進めば、将来的には夏季の日中外出が制限されるような時代が来るのではないかと危惧されます。もはや暑さを一時的な異常気象として捉えるのではなく、新たな生活環境として受け止め、一人ひとりが意識と行動を変えていくことが求められる時代なのかもしれません。(宗像源博)

小板橋誠新日本部会会長のご挨拶にはじまり、富士谷盛興前日本部会会長の退任の挨拶を拝読し、歯科学士会の歴史の重みと未来にかける姿勢を感じました。今回の特別企画は「漢方医学と歯科医療」ではありますが、恥ずかしながら日々の診療の中に漢方医学の概念と治療様式は一切取り入れていない私にとって衝撃でした。(米山武義)

2026年 8 月 25 日 印 刷
2026年 8 月 31 日 発 行

国際歯科学士会日本部会雑誌第57巻第1号

発 行 一般社団法人 国際歯科学士会日本部会
〒161-8558 東京都新宿区下落合2-6-22

一 世 出 版 (株) 内

T E L : 03 (3952) 5155

F A X : 03 (5982) 7751

E-mail secretary@icd-japan.gr.jp

発行者 小板橋 誠

印刷所 一世印刷株式会社

東京都新宿区下落合2-6-22

T E L : 03 (3952) 5651

F A X : 03 (3953) 7751